

JAPANESE PATENT OFFICE  
LAID-OPEN PATENT PUBLICATION

Publication No.: HEI 9-164002  
Date of Laying Open: 24 June 1997  
Application No.: HEI 8-294707  
Date of Filing: 7 November 1996

Inventor: Young Hoon Yeo  
B-204, Kangchong-TenementHouse, 417-9, Seongnae  
3(sam)-dong, Gangdong-gu, Seoul- Teukbyeolsi, Korea

Applicant: Young Hoon Yeo  
B-204, Kangchong-TenementHouse, 417-9, Seongnae  
3(sam)-dong, Gangdong-gu, Seoul- Teukbyeolsi, Korea

Attorney: Hiroshi Arafune

Title of the Invention: Shoe With Inclined Inside Bottom Face

Abstract: The objective of the present invention is to double the exercise effect at the time of walking or jogging and correct the physical posture of a walker.

When a sole 2 installed at the bottom section of a normal shoe 1 is formed, the front side of the sole 2 is made higher than the rear side (heel side), and the inside bottom face 3 of the shoe 1 is inclined downward from the front side to the rear side by approximately 1-20°

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-164002

(43)公開日 平成9年(1997)6月24日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 43 B 7/00 5/00 13/14	310		A 43 B 7/00 5/00 13/14	310 B

審査請求 有 請求項の数2 O L (全3頁)

(21)出願番号 特願平8-294707  
(22)出願日 平成8年(1996)11月7日  
(31)優先権主張番号 1995U-33684  
(32)優先日 1995年11月15日  
(33)優先権主張国 韓国(KR)

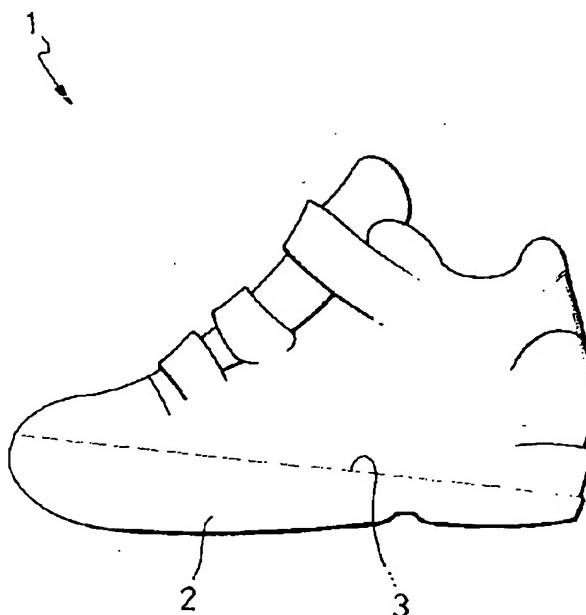
(71)出願人 596160458  
呂 永燐  
大韓民国ソウル特別市江東▲区▼城内3洞  
417-9 江村聯立B棟204号  
(72)発明者 呂 永燐  
大韓民国ソウル特別市江東▲区▼城内3洞  
417-9 江村聯立B棟204号  
(74)代理人 弁理士 荒船 博司

(54)【発明の名称】 内側底面が傾いた靴

(57)【要約】

【課題】 歩行又はジョギング時の運動効果を倍加するとともに歩行者の身体姿勢を正しくするための靴を提供することである。

【解決手段】 通常の靴(1)の底部に設置される靴底(2)を構成することにおいて、前記靴底(2)の前方側を後方側(踵側)より高くして、靴の内側底面(3)が前方側から後方側に大略1~20°下向きに斜めにしたものである。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】通常の靴(1)の底部に設置される靴底(2)を構成することにおいて、前記靴底(2)の前方側を後方側より高くして、靴の内側底面(3)が前方側から後方側に下向きに斜めにしたことを特徴とする内側底面が傾いた靴。

【請求項2】前記内側底面(3)の傾斜角度の範囲を1～20°にしたことを特徴とする請求項1記載の内側底面が傾いた靴。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は内側底面が傾いた靴に関するもので、より詳しくは靴に設置される靴底を前方側が後方側より高くなるように構成して靴の底部に設置することにより、靴の内側底面が前方側から後方側に一定角度下向きに斜めにすることによって、歩行、ジョギング又はエアロビック等の運動時に得られる運動効果を倍加させ得るようにしたものである。

## 【0002】

【従来の技術】近来、日に日に増大する健康に対する関心及び欲求に応じて多様な種類の機能性靴が案出、使用されている実情があり、そのうちにも、既に一般人に知られているように、踵のない靴が広く使用されている。これは歩行又はジョギング時に体重の中心を足の前方側に置いて歩行又はジョギングするようになると、所定の運動効果を期待し得るようにした靴である。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来の踵のない靴は、靴の構成上、踵がないため、歩行又はジョギング時、やむなく足の前方、つまり足の前方部分のみで歩行すべきであるため、歩みの一動作一動作が非常に不便であるだけでなく、得られる運動効果面からも、どうせ足裏の前方側を支点として地面に接した状態で体重の中心を移動するので、思った程度の大きい運動効果を期待しにくくなり、又、この頃歩く姿勢によって関節炎は勿論腰や肩の変形をもたらすという医学界の研究結果も発表されている。これによると、正常的な歩行は3段階歩行、つまり足踵部-足裏-足前方部の順に接触することが人体健康にもよく、足の疲労感程度も軽減されると発表しているので、いくら運動効果を重視しても、従来のような踵のない靴を履いて歩行又はジョギングすると、健康増進はおろか関節炎等の病を得る憂いがあるため、却って健康を害する問題点があるものであった。

【0004】従って、本発明は前記のような従来の運動効果を待たせる機能性靴の諸般問題点に鑑みて、歩行、ジョギング又はエアロビック等の運動時、一般的の靴は勿論前記踵のない靴よりずっと大きい運動効果を期待し得るとともに、踵が常に地面に接した状態で先の正常的な歩行が可能になるので、前述したように非正常的な歩行

により関節炎に取り付かれるか腰の変形が全く発生しなくて、実に健康増進の効果を期待し得る内側底面が傾いた靴を提供することをその目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するための本発明によると、靴の底部に設置される靴底を構成することにおいて、前記靴底の前方側を後方側より高くして、靴の内側底面が前方側から後方側に下向きに斜めにした、内側底面が傾いた靴が提供される。

10 【0006】前記内側底面の傾斜角度の範囲は1～20°であることが好ましい。

## 【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明を添付図面を参照して詳細に説明する。

【0008】本発明は、図1に示すように、通常の靴1の底部に設置される靴底2を構成することにおいて、前記靴底2の前方側を後方側(踵側)より高くして、靴の内側底面3が前方側から後方側に大略1～20°下向きに斜めにした、内側底面が傾いた靴である。

20 【0009】このように構成される本発明による傾斜靴底を有する靴の実施使用状態及び作用効果に対して詳細に説明する。

【0010】本発明の靴1は、図1に示すように、靴底2が靴全体から見て前方側が高く後方側が低く形成されているので、水平状態の地面で靴1を履いた時に足の姿勢は、図2に示すように、足指側が踵側が低い状態で靴を履いた姿勢となるので、この姿勢で平地で歩行、ジョギング又はエアロビック等の運動をすると、靴1の靴底2が斜めになっているため、歩行者は当然靴底2の傾斜角だけ傾いたところを登る場合と同一の運動効果を期待し得るので、別に時間を明けて登山をしなくとも、平常時の歩行だけで健康のための最小限の運動ができることがある。

【0011】又、歩行時に足踵が地面に接する時、常に足踵-足裏-足前方部の順に接する正しい歩行が可能になるので、先の従来の踵のない靴を履いて歩行する時に誘発される関節炎等の疾病からも保護することができる。

40 【0012】前記構成において、靴の内側底面3の傾斜角度の範囲は、前方部から後方部に大略1～20°下向きに斜めに構成されることが好ましいが、前記傾斜角度の範囲は、本発明の目的を逸脱せず本発明の作用効果を達成し得るものであれば、どんな角度に変形実施し得ることは勿論である。

## 【0013】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の内側底面が傾いた靴によると、足裏が接触する靴の内側底面を前方部から後方部に一定角度下向きに斜めに形成することにより、この靴を履いて平地を歩行することだけで、傾いた靴の内側底面と同角度に傾いた坂道を上がるよう

(3)

特開平9-164002

3

度残効果を期待することができ、特に登山のための時間を設ける必要がないだけでなく、歩行時にも常に足踵が地面に接する状態で歩行し得るので、常に正しい歩行姿勢を維持することができ、関節炎等の疾病的誘発を根本的に防止し得る等の有用な効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

4

\* 【図1】本発明の靴の側面図である。

【図2】本発明の靴の着用状態の断面図である。

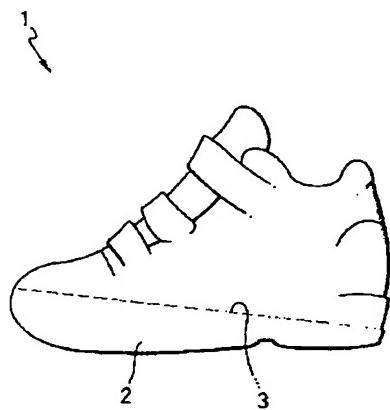
【符号の説明】

1 靴

2 靴底

3 内側底面

【図1】



【図2】

